

解答または解答例等

<秋期入試>

心理学専攻心理学コース博士課程（前期課程）

●英語

【Ⅰ】

問1.（翻訳）再評価は練習によって向上することについて触れ、著者の意図に沿った翻訳がなされていること。

問2. 【1つ目の研究】友人に手伝ってもらった再評価（社会的再評価）は単独で行う再評価よりも効果的であることに言及されていること。

【2つ目の研究】社会的再評価は、持続的な効果があることについて言及されていること。

問3. regulate 群では呈示された画像に対する不快感情を低減するような解釈を自分自身で行う場合（solo 群）と友人が説明している声を聞く（social 群）こと、Look 群では受動的に画像を観察することが記載されていること。

問4. Emotion Regulation のほうが No regulation よりも棒グラフが低く書かれていること、Social と Solo の棒グラフが書かれており、Emotion Regulation では Social のほうが Solo よりも低い、No regulation では Social と Solo の間に差がないことが示されていること。

【Ⅱ】

(1)解答例

[見出し 1]公正さ研究の知見

[見出し 2]利己心

[見出し 3]社会的流動性

(2)評価のポイント

公正研究の結果は人が平等を好むことを示唆するが、世界は不平等が蔓延している。論文を読んでこの乖離の原因を説明できるかが評価のポイントであり、多くの実験室実験では公正さと平等性が分離されない手続きとなっていること、人は相対的優位性を望むこと、実力主義的な社会的流動性の肯定が不平等を許容しがちであること、の3点がある。

●専門に関する論文

【Ⅰ】

問1 左右の大脳半球を連絡する神経線維の束。左右の半球間で感覚情報や運動情報、認知情報を統合する役割を担う。脳梁が切断されると左右半球間の情報伝達が困難となる。

問2 利益と損失を絶対値ではなく基準点からの変化として評価することを示す理論。損失を利益よりも大きく感じる（損失回避）傾向を説明する。

問3 成功する可能性（期待）と、成功することの望ましさ（価値）の積によって、動機づけが決定されるとする理論。課題選択や努力量を説明する。

問4 意味のない音節の組み合わせ。既有知識の影響を排除して純粋な記憶過程を研究するために、エビングハウスが用いた実験材料。

問5 外部環境の変化にかかわらず、生体の内部環境を一定範囲に維持しようとする調節機構。

- 問6 人格を気質と性格に区別する立場。気質は生得的・遺伝的要因の影響を強く受け、自動的な情動反応の傾向を表す。
- 問7 ジェンドリンが提唱した心理療法。身体感覚に注意を向け、その意味を探索することで理解や解決を促す。
- 問8 コンウェイが提唱した自伝的記憶のモデル。自己概念と自伝的知識、エピソード記憶が相互作用しながら自己に関する記憶を形成・検索するシステム。
- 問9 愛着対象との分離に対して、過度で持続的な不安や恐怖を示す障害。分離を避ける行動や登校拒否、悪夢などを伴う。
- 問10 ストレス反応は、警告反応期、抵抗期、疲憊期の3段階からなる。抵抗力は、警告反応期で一時的に低下した後、抵抗期で上昇し、ストレスが長期化すると疲憊期で著しく低下する。

【II】

キーワードあるいはポイントとして以下を挙げる。

- (1) カットオフの基準設定、除外基準、無作為割り付け、介入実施、事後測定、フォローアップ測定
- (2) 非介入統制群、待機リスト統制群、注意統制群、等の選択、各統制群の長所と短所
- (3) 二要因分散分析と交互作用、交互作用の単純主効果、変化量/事後得点を用いた群間比較、効果量

【III】

キーワードあるいはポイントとして以下を挙げる。

- ・自説を支持する情報の選択的収集および解釈
- ・反証情報の軽視あるいは無視
- ・具体例（血液型性格判断、政治的信念、SNSにおける情報選択など）